

(様式2) 平成 22 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0572809382		
法人名	特定非営利活動法人 エヌピーオー社会福祉事業振興会		
事業所名	グループホームすずらん稲川		
所在地	湯沢市川連町字大館川原120		
自己評価作成日	平成23年1月15日	評価結果市町村受理日	平成23年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会		
所在地	秋田市旭北栄町1-5		
訪問調査日	平成23年2月2日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ホームの周辺は自然にあふれています。春は畑作り、秋には稲刈りを見学できます。川と山があるため夏の風は、とても心地よいです。私たちのホームは2階建ての2ユニット18名の方々が暮らしておられます。平均年齢85歳ですが、90歳を越えられた方が4名いらっしゃいます。毎日の暮らしは、空気がゆっくりと流れるように時間も流れていきます。70歳の方には、80歳の方には、外出したい方、一人で動きたい方、話し好きな方には、と当たり前ですが、十人十色です。その方々の望む暮らしを考え職員一同、介護に従事いたしております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

二階建ての「うどん屋」を改築した事業所で、地域との連携をめざして事業所周辺の清掃活動を行い、行事の際には地域の会館を活用するなど理解と協力を得るために努力している。また、養護学校卒業生を雇用して社会参加の場を提供しているほか、有資格者にこだわらず積極的に地元の人材を雇用して地域に貢献している。豪雪地域で冬期間の頻繁な外出は難しいため、室内ゲームや習字など屋内での活動を工夫し、昔と変わらない地域での生活を支援している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	1ユニット( 1階 )	2ユニット( 2階 )
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
		1ユニット( 1階 )		2ユニット( 2階 )	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を考え実践に持っていけるように大きく掲示している。全て実践出来ているわけではない。	常に理念を考え実践に持っていけるように大きく掲示している。全て実践出来ているわけではない。	法人理念の「創」に基づき、利用者一人ひとりの思いに対応できる柔軟なケアや、家族や大切な人(もの)との結びつきによる安心な生活を支援することを事業所理念に掲げている。 また、模造紙で大きく掲示し、ミーティングなどで確認しており、職員が理念を意識して毎年の目標を設定するなど、利用者本位のケアを意識しながら実践に努めている。	前回評価結果を受け、地域とのつながりを意識して法人理念を見直しているが、内容が重複しているため、法人理念を具体化した事業所理念とするなど、職員や第三者が理解しやすいよう整理してほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物、病院、忘年会の会館使用、夏祭りのお誘い、以上の場合に於いては交流あり。	買い物、病院、忘年会の会館使用、夏祭りのお誘い、以上の場合に於いては交流あり。	事業所の夏祭りに近隣住民を招待したり、地域の会館を利用して法人内のいも煮会を行うなど、ボランティアや地域資源を活用しながら交流している。 また、広報誌「すずらん便り」を地域に配布して地域への理解に努め、毎月のごみ拾い活動や散歩などでも地域と関わる機会づくりに努めている。	管理者は地域との関りが十分ではないと捉えており、さらに取り組みたいと意欲的であることから、広報誌配布などの実績を生かしながら今後の取り組みにつなげてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	管理者が稲川のケア会議において、取り組みを話すことはある。近隣の方々にはない。	管理者が稲川のケア会議において、取り組みを話すことはある。近隣の方々にはない。	/	/

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、話し合いを実施し、その事柄を職員に伝えサービスの向上に繋げようとしている。	報告、話し合いを実施し、その事柄を職員に伝えサービスの向上に繋げようとしている。	2か月毎に開催し、利用者の状況や運営課題の報告、地域の要援護者情報などを共有しながら意見交換しており、その内容を職員ミーティングで共有のうえケアに生かしている。	外部評価結果に基づき、具体的な改善計画作成に向けて意見を求めるなど、効果的な開催に努めてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいる。主に福祉事務所、抱括。	取り組んでいる。主に福祉事務所、抱括。	生活保護受給や権利擁護事業を利用している方がおり、行政担当者等と訪問、連絡、相談しながら支援しているほか、保健所による「感染予防通信」の送付などで保健指導、連携に努めている。 また、地元社会福祉法人主催の「稲川ケア会議」に毎月参加し、福祉事務所や地域包括支援センター、社会福祉協議会、民生委員と困難事例や課題等について検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。しかし、1名の方、外に出たい方おり、裏口は終始、施錠し(すぐ側に川がある為)朝は、日勤が来るまで施錠をしている。	理解し、取り組んでいる。	身体拘束しないケアマニュアルを作成し、利用者の帰宅願望や一人での外出を望む場合でも、職員が付き添いながら散歩するなどの統一した対応に努めている。 また、日中は玄関に施錠せず、廊下など職員の死角となる場所にカメラを設置し、利用者の見守りと安全管理に努めている。	前回評価でも課題としているが、地域における利用者の見守りの必要性を職員間で検討しているため、地域との支え合いによる見守り体制を整備するなど、安心・安全な生活環境づくりに努めてほしい。

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行っている。虐待はないと思うが、そのような場面に出た場合は声かけ注意するよう心がけている。	/	/
			社内研修を行っている。虐待はないと思うが、そのような場面に出た場合は声かけ注意するよう心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、研修受ける。職員は、まだ研修しておらず。	/	/
			管理者、研修受ける。職員は、まだ研修しておらず。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者対応している。	/	/
			管理者対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族への報告書、お手紙などで、お声かけしている。すぐに出来る要望は、即対応するようにしている。なるべくご期待に添えるようにしている。	面会時や電話などで家族の意向把握に努め、前回評価の家族アンケート結果に基づいて改善計画シートを作成し、職員の顔写真と名前を掲示して利用者及び家族が覚えやすいよう工夫している。	
			御家族への報告書、お手紙などで、お声かけしている。すぐに出来る要望は、即対応するようにしている。なるべくご期待に添えるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時などに意見等を聞く機会を設けている。	「なんでもノート」の活用や毎月の職員ミーティングなどで職員が意見を述べる機会を確保し、モニタリングには法人代表者も参加して意見交換している。 また、職員の意見から利用者の介護状況や日常生活の様子、介護計画の内容などを個別に書き写し、毎月家族に報告するなど具体的な取り組みにつなげている。	系列事業所との人事異動等により、結果的に経験の浅い職員が増え、ケアよりも指導に要する時間や負担が大きいことから離職につながるなど、悪循環になっているため、法人として有資格者の人材確保や育成・研修に関する方針・ビジョンを明確にし、サービスの質の確保に努めてほしい。
			月1回のミーティング時などに意見等を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力されていると思う。	/	/
			努力されていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修に参加させていただき、各職員の向上に繋がっていると思う。	/	/
			各研修に参加させていただき、各職員の向上に繋がっていると思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士の交流は、ある。グループホーム協議会の交流会には、参加させていただいた。	/	/
			管理者同士の交流は、ある。グループホーム協議会の交流会には、参加させていただいた。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ほとんどは管理者が面接時に要望、困ったことなど聞き取り関係づくりの初めの部分に携わる。時として、ホームに入られる前に慣れていただいてからということもあります。	/	/
			ほとんどは管理者が面接時に要望、困ったことなど聞き取り関係づくりの初めの部分に携わる。時として、ホームに入られる前に慣れていただいてからということもあります。		

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や気がついたことがありましたら、いつでもどうぞと、お声かけいたしております。	/	/
			要望や気がついたことがありましたら、いつでもどうぞと、お声かけいたしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている <b>※小規模多機能型居宅介護限定項目とする</b>	/	/	/
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に相手の立場になって考え、ホームでくらす。	/	/
			常に相手の立場になって考え、ホームでくらす。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族に月に1度報告書を提出している。ホームでのご様子、体調の変化、ご本人の要望等々、連絡し、その方の近況を知っていただく。御家族、職員、共にご本人を知り一緒に支えていく。	/	/
			常に相手の立場になって考え、ホームでくらす。		

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の方の許可を得まして支援に努めている。	御家族の方の許可を得まして支援に努めている。	馴染みの美容院や墓参りに家族と出かけたり、正月に一時帰宅するなど利用者及び家族の意向を尊重しながら対応しており、友人が訪れて面談するなど、理念に基づいて大切な人や場所との関わりを継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努力している。	努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどが、サービスが終了すると関係性がなくなる。病院で突然、行き会ったりしたときは挨拶をかわす。	ほとんどが、サービスが終了すると関係性がなくなる。病院で突然、行き会ったりしたときは挨拶をかわす。		

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランなどを作成するときにご本人の希望、意向の把握につとめる。	生活リズムシートに利用者が発した言葉から意向を記録し、「好きなもの・嫌いなものシート」に利用者の思いや職員の意見を記載している。 また、利用者の表情や動作から、その日の気分や感情の起伏を感じ取りながら声かけ、支援しており、職員間での統一した対応に努めている。	
			ケアプランなどを作成するときにご本人の希望、意向の把握につとめる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームに入られる前の暮らしぶりを知るなどのカンファレンスをひらく。	/	/
			ホームに入られる前の暮らしぶりを知るなどのカンファレンスをひらく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の記録をつけることにより、その方の1日の流れがわかり、自身を知ることが出来る。	/	/
			個別の記録をつけることにより、その方の1日の流れがわかり、自身を知ることが出来る。		

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行いケアプランに反映させている。	モニタリングを行いケアプランに反映させている。	管理者及び計画作成担当者が利用者と家族の意向を確認し、毎月のカンファレンスで居室担当者の意見を参考にしながら介護計画を作成している。 また、モニタリング時には担当以外の職員も参加し、生活リズムシートやケース記録を活用しながら気づきを話し合い、見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	あらゆる記録等をもとに職員間で情報を共有し、支援に繋げている。	あらゆる記録等をもとに職員間で情報を共有し、支援に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる <b>※小規模多機能型居宅介護限定項目とする</b>				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分な支援をしているとは、いけない。もっと、その方にとっての地域資源があると思う。暮らしを楽しむ充実させるために考えなければならない。	十分な支援をしているとは、いけない。もっと、その方にとっての地域資源があると思う。暮らしを楽しむ充実させるために考えなければならない。		

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>定期的受診は、ホームまたは御家族で対応している。様子を見て、救急外来を受診する。受診前、受診後、御家族に連絡をいれる。適切な医療を受けられていると思う。</p> <p>定期的受診は、ホームまたは御家族で対応している。様子を見て、救急外来を受診する。受診前、受診後、御家族に連絡をいれる。適切な医療を受けられていると思う。</p>	<p>それまでのかかりつけ医への受診を継続したり、協力医を主治医に変えるなど柔軟に対応しており、家族の依頼を受けて通院支援している。</p> <p>また、通院時には個人の経過記録を持参し、利用者の状態を家族と職員間で把握できるよう工夫している。</p>		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>ホームに看護職はいないが、職員が、気づき適切な対応をしている。</p> <p>ホームに看護職はいないが、職員が、気づき適切な対応をしている。</p>			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>入院した際に医師よりどれくらい入院してもらえるか又、今後、退院してもホームで見てくれるか聞かれる。大事なところは家族にというときもあるが以前より、きちんと情報の提供をしてくださり、関係づくりができてきていると思う。</p> <p>入院した際に医師よりどれくらい入院してもらえるか又、今後、退院してもホームで見てくれるか聞かれる。大事なところは家族にというときもあるが以前より、きちんと情報の提供をしてくださり、関係づくりができてきていると思う。</p>			

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた話し合いは、なかったと思うが、重度化した場合には、御家族、病院等と連絡を密にし、職員で出来ることも家族に説明し、支援に取り組んでいる。  終末期に向けた話し合いは、なかったと思うが、重度化した場合には、御家族、病院等と連絡を密にし、職員で出来ることも家族に説明し、支援に取り組んでいる。	利用者が重度化した場合は、他施設の利用や医療機関での対応を優先することを家族に説明しており、重度化するまでは通院で対応するなど、できる限り事業所で支援することを方針としている。	利用開始時に重度化した場合の対応を説明しているが、具体的な事業所の方針や家族の同意書などを書面で整備し、事業所の体制づくりに取り組んでほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習などをうけている職員もいるが、うけていない職員も多い。今後は、定期的な訓練を行っていききたい。  救命講習などをうけている職員もいるが、うけていない職員も多い。今後は、定期的な訓練を行っていききたい。	/	/
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は定期的に行っている。地震、水害等の災害時の避難訓練は行っていない。緊急連絡網の中に近隣の方3名に入ってもらっている。隣のうどん屋のご主人からも、災害の時など避難場所に提供すると話しあり。  火災の避難訓練は定期的に行っている。地震、水害等の災害時の避難訓練は行っていない。緊急連絡網の中に近隣の方3名に入ってもらっている。隣のうどん屋のご主人からも、災害の時など避難場所に提供すると話しあり。	消防計画に基づき年2回の避難訓練を行い、夜間の想定や誘導、通報、消化訓練など、火災通報装置を使用して実施している。また、緊急連絡網に近隣住民が加わり、協力や見守り体制を確保している。	前回評価でも課題としているが、地域住民に避難訓練への参加を呼びかけ、避難誘導など具体的な役割を明確にし、地域と連携した非常災害対策の構築を運営推進会議などで検討しながら、実践につなげてほしい。

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応の悪いときがある。	一人で入浴する方や食事ペースに合わせた服薬支援など、利用者一人ひとりの生活リズムや意向を尊重しながら支援している。 また、利用者との関わりや性格などに応じて敬語を交えながら接しており、管理者が不適切だと感じた場合は、個別に注意したり会議で話題にしながら意識づけしている。	入浴や排泄介助において苦情等はないが、今後は利用者の羞恥心に配慮し、同性介助に関して利用者及び家族の意思を確認しながら支援してほしい。 また、経験の浅い職員が多いことから、ユニット間で不適切な対応がないか検証し、統一した接し方に努めてほしい。
			言葉かけや対応の悪いときがある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援している。	/	/
			支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先していることが多い。	/	/
			職員側の都合を優先していることが多い。		

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	御自身では選ばれたりしないが、「似合う、」などの声かけをする。	/	/
			出かける時などは、洋服を選ばれているとき声かけして相談にのる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に行っている。	ユニット毎に利用者の希望を取り入れて献立を作成しており、利用者の嗜好や咀嚼力など状態に応じて食材や調理方法を変更している。 また、外食やバイキングなども取り入れ、食事を楽しめるよう工夫している。	/
			一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。	/	/
			支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアをしている。拒否などあった場合は、その時は、控えて、トイレの後などにケアしていただく。			
			口腔ケアをしている。拒否などあった場合は、その時は、控えて、トイレの後などにケアしていただく。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中においては、リハビリパンツや布パンツでトイレで排泄。夜間は、ポータブルトイレ使用する。	生活リズムシートに排泄状況を記録し、日中はトイレで排泄できるよう声かけ誘導しており、夜間はポータブルトイレ使用などで自立に向けて支援している。		
			日中においては、リハビリパンツや布パンツでトイレで排泄。夜間は、ポータブルトイレ使用する。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天を利用したおやつ多い(便秘によい)			
			色々と、たくさん食べていただき、便秘の予防にする。			

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態に合わせて入浴していただくが、時間は午後からと決めてしまっている。寝る前に入りたいという方にはその時間に入浴していただく。	利用者の希望を取り入れ、毎日や就寝前の入浴も柔軟に支援しており、入浴を拒む場合は職員が交代で声かけしながら促している。 また、足浴や清拭などで清潔に努め、入浴剤を使用したり、誕生日に日帰り温泉に出かけるなど入浴を楽しめるよう工夫している。		
			健康状態に合わせて入浴していただくが、時間は午後からと決めてしまっている。寝る前に入りたいという方にはその時間に入浴していただく。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。			
			支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日付、いつの服薬、名前の確認、薬の目的等々気をつけて服薬の支援にあたる。			
			日付、いつの服薬、名前の確認、薬の目的等々気をつけて服薬の支援にあたる。			

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日が張り合いがあり、楽しいわけではないと思うが今までやって来られたことなど出来ることを、一緒にしていただく。その中に気分転換となることも取り入れている。			
			毎日が張り合いがあり、楽しいわけではないと思うが今までやって来られたことなど出来ることを、一緒にしていただく。その中に気分転換となることも取り入れている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している <b>※認知症対応型共同生活介護限定項目とする</b>	外出の多い人と、年に何回かしか外出出来ない人に分かれてしまうが、なかなか出られない方に対しては、季節を感じていただけるように例えば春なら桜という風に外出時に楽しんでいただいている。	事業所周辺の散歩や近隣スーパーへの買い物などで日常的に外出しているほか、ドライブなど季節を感じられる機会もつくっている。		
			外出の多い人と、年に何回かしか外出出来ない人に分かれてしまうが、なかなか出られない方に対しては、季節を感じていただけるように例えば春なら桜という風に外出時に楽しんでいただいている。	また、通院時にも買い物や外食をし、近隣スーパーに設置されている「ふれあいサロン」の利用も検討している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方であるが、個人でお金を持っている方もいる。財布はホームで保管し、支払いも、その中から職員が行う。			
			一部の方であるが、個人でお金を持っている方もいて、お菓子など購入される。そのほかの方の財布についてはホームで保管し、支払いも、その中から職員が行う。			

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人に会いには来てくださらないが、電話は、何時でもとのことで、かけている。内容は、自分を迎えに来てくれという内容だが。それでも親類の声を聞かれ嬉しそうに話をされている。			
			家に残っている家族に電話される。火の元など気をつけるように等々、心配しての電話である。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に暮らせるように掃除、消毒をしている。場所的に風の通りがよい。ホーム内には、季節に合った飾り物や、花などを飾る。昨年の夏は、暑かった為、食堂に冷房を取り付けてもらう。			<p>前回評価結果を受けて洗濯乾燥室を設け、玄関や廊下が広いベンチやソファを置き、畳の小あがり、事務室内などで自由に過ごしている。</p> <p>また、利用者と職員が共に清掃し、手すり消毒などで衛生管理に努めている。</p>
			清潔に暮らせるように掃除、消毒をしている。場所的に風の通りがよい。ホーム内には、季節に合った飾り物や、花などを飾る。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	いつもは、食堂におられるが、玄関先と、裏口の所にそのような空間がある。			
			事務所脇に、畳のスペースとソファが置いてある。その空間で、こじんまりと話されたりしている。			

自己	外部	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れた物を持ってきていただいている。楽しく過ごせるように工夫している。ご本人にとって危険な物でなければ良いと思う。	使い慣れた馴染みのタンスやベット、テレビなどを持ち込み、利用者の希望に沿って布団を敷いたり、利用者や家族の写真を飾るなど、自由な生活空間づくりを支援している。	
		ご自宅から使い慣れた物を持ってきていただいている。楽しく過ごせるように工夫している。ご本人にとって危険な物でなければ良いと思う。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーに配慮した構造になっている。トイレ、廊下、風呂場等に、手すりを設置している。各居室には表札がついており自分のお部屋がわかる。トイレにも大きくわかるように表示されている。	/	/
		バリアフリーに配慮した構造になっている。トイレ、廊下、風呂場等に、手すりを設置している。各居室には表札がついており自分のお部屋がわかる。トイレにも大きくわかるように表示されている。			